

Mail Box

前略 会員の皆様へ〈第4信〉

WSFジャパン代表

三ッ谷 洋子



ことしの東京の春は一気に到来した感じです。沈丁花や梅が散る前に、桜が咲きました。皆様、お変わりありませんか。

初めてフィリピンに行ってきました。マニラで開催された「アジア女性スポーツ会議」に出席するためです。会議の内容などは「オピニオン」のページをお読みください。一緒に会議に参加した高橋さんが、詳しく真面目に書いてくれています。

会議責任者のジョセフィナ・バウゾンさんは、WSFフィリピンの会長です。4年前、東京で開催された外務省「世界スポーツコーチ・サミット」で来日の際、一度お会いしています。私はアジア各国の代表と並んで、「日本の女性スポーツの歴史」について20分程度の講演をするという大役を任せられました。講演は何度もしていますが、外国で、しかも英語で(!) というのは初めてです。

私のモットーは文章も話も「分かりやすく、面白く」。日本の女性とスポーツの関わりについて、「明治時代の着物姿のスキーヤー」や「日本女性初の五輪メダリスト・人見絹枝」、私が企画した「第1回国際女性スポーツ会議」などを、スライドを使って説明することにしました。原稿をまとめる上で最も苦労したのは、日本の歴史や現状をほとんど知らない外国の人達に、日本の社会や女性とスポーツのかかわりを、どのように理解してもらうかという点です。それもたったの20分で。

3月8日の夜、マニラ行きの飛行機の中での4時間余、そして翌日予定されていた午後4時半の講演開始の直前まで、私は必死に英語の原稿とスライドのチェックをしました。スライド係の高橋さんが、何とノンキに見えたことか……。

今回、原稿をまとめながらアジアの視点から日本を見直してみて、今更ながら驚いたことがあります。一般市民の豊かさです。発展途上にあるアジア諸国の女性に比べると、特に主婦と呼ばれる女性たちの置かれたスポーツ環境の良さは、群を抜いています。講演で使用したデータのひとつに、全国家庭婦人バレーボール大会の参加状況をまとめたものがあります。昨年の参加チームは6千740。1チームを12人として計算すると、なんと8万1千人が参加しているのです。本当にすごい数です。

これまで、日本のスポーツが欧米諸国に遅れていることばかりに目を向けていた私にとって、この発見は小さくありませんでした。しかし、これだけ多くの女性がスポーツに参加し、世界の舞台でも活躍しているにもかかわらず、組織の要職はほとんど男性ばかりという大きな問題があります。全国的な統括団体の役職に女性がようやく1人か2人という現状は、会議に参加したマレーシア、イラン、バングラデシュ、キルギスタンなどと同じでした。

これは一体、どういう事なのでしょう。他の国と比べると、日本には階級による差別はないが、女性に対しては大きな差別がある」ということなのだと思います。日本では国を動かす政治家や官僚、大企業やマスコミなど、社会的に影響を持つ分野で働く女性の比率がとても少ないのです。あらゆるデータがそれを示しています。スポーツ界についても、十年一日のごとき変化の遅さに腹が立ってくるほどです。WSFジャパンの仕事はまだまだあるということです。

ところで私の講演の評判のほうは、まずまずでした。最終日にフィリピンの参加者全員が、私たち外国からの参加者のために「Thank you」という歌を歌ってくれました。素敵な演出だとおもいました。